科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学概論	2年前期	1	30	（助産師として20年）

科目のねらい

子どものライフサイクルから見た各期の特徴を理解し、成長・発達について形態的・機能的・精神運動的発達を理解する。また、子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの権利を尊重した「小児看護の役割」を理解する。

到達目標

１．小児看護の特徴、子どもの成長・発達、健康増進のための看護について理解できる。
２．子どもの人権を守ることに対する基本的態度が理解できる。

DPとの関連

1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	１.小児看護の対象である子どもの発達段階と小児看護の目標について理解できる	１.ガイダンス ２.子どもとは ３.子どもの発達段階 ４.小児看護の対象と目標、役割	講義	
2	1.子どもを取り巻く社会環境や小児看護の特徴を理解できる	１.子どもと家族の諸統計 ２.現代の小児看護と課題 ３.小児看護における倫理	講義	
3		１.テーマに基づいて、子どもの権利について考える	グループワーク	
4	1.子どもにとっての家族、家族の特徴について理解できる	１.家族とは ２.子どもと家族の特徴 ３.家族のアセスメント	講義	
5	1.子どもと家族の健康に関する法律について理解する。	１.児童福祉に関する法律 ２.母子保健に関する法律 ３.医療費の支援 ４.予防接種 ５.学校保健に関する法律	講義 グループワーク	
6	１.子どもの成長・発達の特徴について理解できる	１.子どものイメージの共有 ２.成長発達理論 ３.成長・発達を学ぶ意義 ４.一般的原則 ５.成長・発 達に影響する因子 ６.成長・発達の評価	講義	
7	1.子どもの栄養について理解できる	1.子どもにとっての栄養の意義 2.乳幼児期の栄養	講義	
8	1.子どもにとっての遊びの意義について理解できる	１.子どもにとっての遊びとは ２.小児各期の遊びの特徴	講義	
9 10 11 12 13	1.子ども各期の成長・発達が理解できる	１.各期の子どもの形態的成長・発達の特徴 ２.機能的発達の特徴 ３.心理・社会的発達 ４.セルフケアの発達	プロジェクト学習 成果発表	
14	1.子どもの日常生活と援助について理解できる	1.基本的生活習慣の獲得 ①排泄 ②睡眠 ③衣服の着脱 ④清潔など	講義 グループワーク	
15	1.子どもとその家族を取り巻く諸問題	児童虐待、いじめ、不登校、育児不安など	講義	

受講上の注意

・能動的な講義形式とプロジェクト学習で構成する。

関連科目

・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。 ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。 ・各講義前に、前回講義のプレテスト、ポストテストを実施し知識定着の確認を行う。	解剖生理学 公衆衛生学 母性看護学

事前および事後学習

講義内容の予習・復習を行う。

成績評価の方法

筆記試験60%　プロジェクト学習（ルーブリックで評価）30%　受講態度・出席状況10%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

1．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院

参考書

1．ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論Ⅰ	２年前期	1	15	(医師として22年) (医師として29年)

科目のねらい

子どもに起こりやすい疾患を系統別・病態別に分類し、各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する

到達目標

1. 子どもにみられる各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

DPとの関連

◎2. 人を尊重し、思いやりの心を持って行動することができる。
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	染色体異常・先天性疾患、低出生体重児の疾患について理解できる。	常染色体異常、性染色体異常、胎芽病・胎児病 新生児（出血性疾患、頭蓋内出血他） 低出生体重児（呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症他）	講義	
2	子どもに多い消化器疾患、内分泌代謝疾患について理解できる	便秘症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、感染性胃腸炎、胆道閉鎖症、鎖肛 新生児マススクリーニング、糖尿病、下垂体疾患（低身長・中枢性尿崩症）、甲状腺疾患	講義	
3	悪性新生物と血液・造血疾患について理解できる	神経芽腫、ウィルムス腫瘍、網膜芽細胞腫、脳腫瘍、貧血、白血病	講義	
4	子どもに多い腎・泌尿器疾患について理解できる	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、ＩｇＡ腎症、先天性尿路奇形（水腎症・膀胱尿管逆流症）、腹膜透析、尿路感染症	講義	
5	子どもに多い呼吸器疾患、感染症について理解できる	上気道炎、気管支炎、肺炎、細気管支炎、気管支喘息、クループ症候群 ウイルス感染症（麻疹・風疹・水痘・ヘルペス等） 細菌感染症（百日咳・ブドウ球菌感染症等）	講義	
6	子どもに多いアレルギー疾患について理解できる	アレルギー性疾患、食物アレルギー	講義	
7	子どもに多い循環器疾患について理解できる	先天性心疾患（ファロー四徴症、心房中隔欠損症） 川崎病等	講義	
8	子どもに多い神経障害について理解できる	水頭症、髄膜炎、脳炎、てんかん、発達障害 筋ジストロフィー	講義	

受講上の注意

能動的に講義に参加する。

関連科目

解剖生理学
小児看護学概論・小児臨床看護総論

事前および事後学習

講義前に予習し、講義後には復習を行うこと

成績評価の方法

筆記試験　100%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

１．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護学各論　小児看護学②　医学書院

参考書

１．ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論Ⅱ	２年前期	1	30	（助産師として20年）

科目のねらい

小児看護学方法論Ⅰで学んだ、主要疾患の看護の理解を通して、子どもと家族の特徴、疾病の経過と症状、アセスメントに必要な技術を知り、それぞれに必要な看護を学ぶ。

到達目標

１．小児看護の特徴、子どもの成長・発達、健康増進のための看護について理解できる。
２．子どもの人権を守ることに対する基本的態度が理解できる。

DPとの関連

1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	症状を緩和し、評価するための基礎知識を習得することができる	・不機嫌、低級を示す子どもと家族の看護 ・発熱のある子どもと家族の看護 ・痛みのある子どもと家族の看護 ・けいれん、意識障害のある子どもと家族の看護	協同学習	
2		・呼吸器症状のある子どもと家族の看護 ・アレルギーのある子どもと家族の看護 ・下痢、脱水を示す子どもと家族の看護		
4	先天異常の疾患を持った子どもの看護を述べることができる	・先天性疾患の子どもと家族の看護 （先天異常の種類と特徴） ・心身障害の子どもと家族の看護	講義 グループワーク	
5	代謝性疾患を持った子どもの看護を述べることができる	・1型糖尿病を持つ子どもの看護　　など	講義	
6	感染症の子どもと家族の看護を述べることができる	・麻疹の子どもと家族の看護 ・風疹の子どもと家族の看護 ・水痘の子どもと家族の看護　など	講義	
7	呼吸器疾患のある子どもと家族の看護	・急性期疾患の特徴と看護 ・肺炎、気管支炎の子どもと家族の看護 ・気管喘息の子どもと家族の看護	講義	
8	アレルギー疾患のある子どもと家族の看護を述べることができる		講義	
9	循環器疾患のある子どもと家族の看護	・川崎病の子どもと家族の看護 ・ファロー四徴症の子どもと家族の看護	講義	
10	消化器疾患のある子どもと家族の看護を述べることができる	・急性胃腸炎の子どもと家族の看護 ・肥厚性幽門狭窄症の子どもと家族の看護 ・腸重積の子どもと家族の看護	講義	
11	腎・泌尿器疾患のある子どもと家族の看護を述べることができる	・ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 ・急性糸球体腎炎の子どもと家族の看護	講義	
12	事例の看護過程を考えることができる	・看護過程展開の記録用紙を用いて個人ワークを行う ・看護過程の展開を通して必要な問題と援助を考える	講義	
13			グループワーク 発表	
14				
15				

受講上の注意

・能動的な講義形式とプロジェクト学習で構成する。
・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。
・積極的な姿勢で講義に臨むこと。
・各講義前に、前回講義のプレテスト、ポストテストを実施し知識定着の確認を行う。

関連科目

解剖生理学
小児看護学概論・小児臨床看護総論
小児看護学方法論Ⅰ・Ⅲ

事前および事後学習

講義前に予習し、講義後には復習を行うこと

成績評価の方法

筆記試験60%　協同学習・看護過程演習30%
参加態度・出席状況10%

教科書・参考書・その他の教材

教科書　１．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護学各論　小児看護学②　医学書院
参考書　１．ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版
　　２．発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学方法論Ⅲ	２年後期	1	30	(看護師として9年) (看護師として1年)

科目のねらい

健康障害のある子どもの事例を通し、子どもと家族に対する看護について学ぶ。子どもの看護に必要な日常生活の援助や看護のために必要な援助を、安全・安楽に行うための技術について、演習を通し実際の援助の理由を深める。また、病気の子どもと家族の思いを考える。

到達目標

１．健康上の問題を持つ子どもと家族の心理及び対応の方法を理解する
２．健康上の問題を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する
３．子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ

DPとの関連

1.多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的･精神的･社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。
◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識･技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	外来受診や入院などの状況が子どもと家族に及ぼす影響を知り、必要な看護が理解できる	・小児科外来看護の特徴 ・外来と病棟との連携 ・入院が子どもと家族に及ぼす影響	講義	
2	救急処置が必要な子どもと家族の看護が理解できる	・主な事故、外傷（誤飲・溺水・熱傷）と看護 ・小児救急におけるトリアージと対応 ・虐待が疑われる場合の対応	講義	
3	周手術期の子どもと家族の看護が理解できる	・周手術期の特徴と看護 ・手術を受ける子どもと家族の看護	講義	
4	終末期にある子ともと家族の看護が理解できる	・子どもの死の理解と反応 ・終末期にある子どもと家族の看護	講義	
5	災害時の子どもと家族の看護が理解できる	・災害による子どものストレス	講義	
6	医療ケアが必要な子どもと家族の看護を理解できる	・在宅療養を受ける子どもと家族の特徴 ・専門職による連携と社会資源	講義	
7	子どものフィジカルアセスメントを理解できる	・アセスメントに必要な技術 ・身体的アセスメント	講義	
8 9 10	子どもに対する看護技術のための基礎知識を習得することができる①	・子どもに苦痛を与えない看護技術を考える	プロジェクト学習 成果発表	
11	検査・処置を受ける子どもと家族の看護を理解できる	・検査、処置を受ける子どもの看護	講義	
12 13 14 15	子どもに対する看護技術のための基礎知識を習得することができる②	・事例を通して、看護援助を実践する	シュミレーション学習	

受講上の注意

・能動的な講義形式とプロジェクト学習、シュミレーション学習を取り入れる。
・プロジェクト学習の詳細は講義のなかでガイダンスする。
・シュミレーション学習では、2つの事例の場面の看護を考える。
・グループワークではグループダイナミックスを活用し、積極的に臨むこと。

関連科目

基礎看護技術
小児看護学概論・小児臨床看護総論
小児看護学方法論Ⅱ
在宅看護論
災害看護

事前および事後学習

講義前に予習し、講義後には復習、技術に対しては振り返りを行うこと

成績評価の方法

筆記試験50%　プロジェクト学習・シュミレーション学習（ルーブリックで評価）40%
参加態度・出席状況10%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

１．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院
２．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護学各論　小児看護学②　医学書院

参考書

１．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第2版

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学実習Ⅰ	2年後期	1	30	（助産師として20年）

科目のねらい

小児各期の特徴を理解し、健康の諸段階にある小児とその家族を対象に、健康増進及び回復のための看護を展開する能力を養う

到達目標

１．小児各期の成長・発達の特徴が理解できる。
２．子どもの成長・発達を維持増進し、自立を助けるための養護・看護の役割について理解できる。

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。□

◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解する。

授業計画

学習内容	方法	担当
詳細は小児看護学実習要綱を参照 １．実習期間：2年生後期 ２．実習時間：臨地実習　9：00～16：00 ３．実習内容 １）保育園実習（2年生後期）（火～金曜日）４日間　※金曜日は６時間 ①1つの保育園に5名で実習を行う ②クラスに入り、年齢に応じた子どもの成長・発達について観察し、保育士の指示のもと支援の実際を行う	臨地実習	

受講上の注意

・子どもの目線に合わせてコミュニケーションを行うこと
・子どもを尊重した態度で接すること
・積極的に実習に臨むこと
・安全には十分配慮すること

関連科目

基礎看護技術
小児看護学概論
小児看護学方法論Ⅱ

事前および事後学習

実習要綱を熟読し、必要と考える事前学習を行う。
援助時は必ず振り返りを行い次の援助に活かすこと。

成績評価の方法

ルーブリックで評価
保育園30%　保健センター10%　小児科病棟60%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

１．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院
２．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護学各論　小児看護学②　医学書院

参考書

１．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第2版
２．ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
小児看護学実習Ⅱ	3年前期	2	60	（助産師として20年）

科目のねらい

小児各期の特徴を理解し、健康の諸段階にある小児とその家族を対象に、健康増進及び回復のための看護を展開する能力を養う

到達目標

２．子どもの成長・発達を維持増進し、自立を助けるための養護・看護の役割について理解できる
３．健康障害を持つ子どもに対して療養上必要な看護が展開できる
４．健康障害を持つ子どもとその家族に対して健康回復に必要な援助ができる

DPとの関連

1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。
2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

学習内容	方法	担当
詳細は小児看護学実習要綱を参照 １．実習期間：2年生後期～3年生前期 ２．実習時間：臨地実習　8：30～15：30 ３．実習内容 １）保健センター（3年生前期）　2日間（16時間） ①1つの施設に2～5名で実習を行う ②地域の育児支援について学ぶ ２）小児病棟実習（44時間　※学内実習4時間含む） ①原則として受け持ちの子ども1名を担当する ②受け持ちの子どもの発達段階・健康障害を理解し、看護を実践する 月曜日：オリエンテーション、受け持ち患児決定 火曜日～金曜日：受け持ち患児の看護実践 木曜日：関連図発表 金曜日：受け持ち看児の看護の実践と実習の振り返り	臨地実習	

受講上の注意

・子どもの目線に合わせてコミュニケーションを行うこと
・子どもを尊重した態度で接すること
・積極的に実習に臨むこと
・安全には十分配慮すること
・感染に対する抵抗力が弱い子どもを対象とするため、自己の健康管理に留意すること

関連科目

基礎看護技術
小児看護学概論
小児看護学方法論Ⅰ
小児看護学方法論Ⅱ
小児看護学方法論Ⅲ
母性看護学方法論Ⅱ

事前および事後学習

実習要綱を熟読し、必要と考える事前学習を行う。
援助時は必ず振り返りを行い次の援助に活かすこと。

成績評価の方法

ルーブリックで評価
保育園30%　保健センター10%　小児科病棟60%

教科書・参考書・その他の教材

教科書

１．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院
２．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護学各論　小児看護学②　医学書院

参考書

１．ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
２．ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児の発達と看護　メディカ出版
３．ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の発達と看護　メディカ出版
４．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第2版